

山行報告書

報告者：札幌山の会 K/H、T/G、D/S

北海道山岳・S C連盟アルパインクライミング・レベルアップ研修会③

冬季アルパインルート登攀：上ホロカメットク山正面壁中央クーロアール

令和 6 年 12 月 21 日 リーダー石井 参加者K/H、T/D、D/S、T/M

行動概要 7:20 凌雲閣発～8:20 安政火口～9:20 八つ手稜線装備交換～10:45 正面壁取付～15:30 上ホロ山頂～17:30 凌雲閣着

行動記録

北西稜、化物と上ホロを経験してきて、正直あまり登りに関して厳しさは感じたことがなかった冬季アルパインクライミングでしたが、今回の中央クーロアールは 2-3m の強度の高い乗り越しが 3 回ほど、それ以外は雪渓を詰めるような形で、部分的に登りが面白いな！と思えるところがありました。特に 1P 目のロープを 2 本背負っての登攀は、なかなかパワーが必要で思わず声が出ました。

今回は人数や進行の関係でゆっくりできないことからリードをする機会はありませんでしたが、出来ると思うので次はやってみたいと思います。

この人数、アプローチ、クライミング、デプローチ、全てが予定よりも押した中で頂上を踏めたのは、全て上ホロらしからぬ良い天気のおかげであり日頃の行いが良かったということでしょう。今回はとりあえず一通りの経験が出来ました。しかし、次からはより悪いコンディションは常であり、当然のように撤退の判断が求められると思います。

作業を早く、登りを早く、が安全面でも大事かなと思います。冬の登攀に関しては、自分が苦手としている要素を色々克服してきた部分もありますが、あまり楽観的にはならず、トレーニングを積んでいきたいです。(T/D)

道岳連アルパインレベルアップ研修第 3 回目の私の感想。

今まで、四季折々の山行を経験してまいりましたが、今回の「上ホロ中央クローラール」は、今まで経験した技術と厳しい環境で最高のパフォーマンスを発揮す

る為のギアの集大成であると感じました。

まずアプローチまでの歩行。冬山登山装備とドライツリーリングに必要な装備。2つの分野の装備を背負っての歩行は、体力とマイナス20℃ぐらいに耐えられる装備が必要だと学びました。次にドライツリーリング。今回は3ピッチ、5人で登る。3ピッチを短い時間で登る為の登り方のやり方とアックスとアイゼンをどのように岩と氷に効かせるかが非常に難しい。最後に下降技術。重たい荷物を背負って下降は、アイゼン歩行の技術と疲れた状態でのバランス感覚が重要。事故が多い理由も納得できる。初めてのアルパインを経験し、改めて登山の魅力を感じる事ができました。ご指導していただいたリーダー、本当にありがとうございます。最後に、山頂で撮った写真は、今現在の自分の限界の姿です。少しでも超えられるように頑張ります。(D/S)

昨年の北西稜で上ホロの全体像がよくわかったが、今回は正面壁ということで登攀要素の強い山行だった。

参加者が当初6名、Nさんのキャンセルで5名とはなったが大人数での登攀をいかに効率的に行うか、という点がポイントだった。体力、技術ともに不均一な集団であり、何より安全を最優先にし、かつリーダーの負担も考慮して色々事前に策を練ったつもりだったがうまく行ったこと、うまくいかなかったことがいろいろあった。

うまく行ったこと

- ・ なにより大きな怪我、トラブルなく下山まで相互に連携できたこと。アプローチの消耗を見て荷物を調整したり、ヘッドン下山で経路が分断されないように歩行を調整したり。特にTさんの献身的な動きが素晴らしかった。職業柄身についていること、体力・技術的に優れていることを活かしてパーティーに欠かせない存在だった。
- ・ それぞれの自立性があった。装備の微修正、補給や水分など過不足はあったかもしれないが各々がきちんと自分の身を守りながら山行を進めることができ、誰一人としてギブアップしなかった。
- ・ 八つ手岩東側の下降ルンゼが経験でき、上ホロ登攀での下降路の選択肢が増えた。条件を考慮すれば十分安全なルートと感じた。

- ・ ヘッデン下山を事故なく完遂できた

うまくいかなかったこと、修正可能なポイント

- ・ 事前に明確なルールを設けなかったが、リーダーがリードした後の動きが多少行き当たりばったりになった。特にロープをフィックスにしてタイブロックで登攀する経験が各自少なく、要領を得ない中での登攀に緊張感が高まった。
- ・ 通信手段として特小無線を持っていったが、事前には通信できていた無線が現地では非常に聞き取りにくく、ほとんど使用できなかった。低温による電力の不安定さ、機種の問題など原因は不明だが無線に頼らない登攀時のロープ操作の基本ルールの打ち合わせが事前に必要と感じた。
- ・ 各自の支点構築能力とロープワーク。夏のクライミングでは不安定なアルパイン環境での支点構築練習ができておらず、経験のないメンバーが先に登って支点構築やフォロワー引き上げなどを任せることができなかった。冬のアルパインを見据えて各自の練習も必要だが、メンバー全体の技術習得のための仕組みが必要と感じた。
- ・ ドライ、ミックスの経験不足。それぞれ多少の経験はあっても、落ちられない条件下でのミックスで必要以上に恐怖感が出てしまったり、スタミナを消耗してしまう場面があった。もっと簡単なミックス環境での繰り返し練習が必要と感じた。

総じて現状がよく再認識でき、自分たちの強みも弱みも良く見えた山行であった。(K/H)





